



はじめに



大阪市では、発達障害の早期発見・早期理解・早期支援の観点から、保育所における発達障害のあるこどもの支援充実のため、平成21年度から3年間『発達支援モデル研究』に取り組んできました。その後、モデル保育所を中心とした公立保育所での実践・検証と、民間保育所への支援の共有・普及を行い、保育士の専門的スキルの向上と、人材育成を進めてきたところです。

この冊子は、平成24年3月に作成した【発達支援プログラム冊子 できた！わかった！のしいよ！】の続編としてまとめたものです。今回は、冊子を活用しながら個別の支援に取り組む中で保育士の気づきが深まり、より一人一人に応じた支援を行った具体例や、早期理解の観点から、乳児期における保育の振り返りによって、早期にこどもの困りを理解することの大切さ、そして早期支援の為に保護者連携について紹介しています。

発達障害を含め障がいのあるこどもたちには、早期からの支援が必要で、保育所においてもこどもの困りに気づき、保護者や関係機関と連携して、こどもの特性を生かした適切な支援を行うことが大切であると考えます。

1冊目に続きこのパートⅡが、日常生活において発達障害のあるこどもを中心に、保育場面での困りを理解するための参考となり、一人一人の保育所生活が充実したものになるよう、活用していただきたいと思います。

平成27年3月

大阪市こども青少年局保育施策部保育所運営課